

紡ぐ ～13年目を迎えた被災地、 変化する被災者支援～

概要

東日本大震災及び東京電力福島第一原発事故から約13年が経過します。
13年目の現在、各地域の変化していくフェーズの中で、被災地ではどのような課題が残っているのか？課題解決のため、安心・安全な地域を未来へ紡ぐために今後どのような取組や支援が必要なのか？登壇者を中心に、現在の被災地における活動や現状について様々なセクターや立場の参加者と共に共有します。

開催日時

2023年11月13日(月) 12時30分～16時15分

交流会：16時25分～17時30分

※交流会は任意参加となっております。

開催方法

●ハイブリッド開催

- 会場参加 / いわて県民情報交流センター(アイーナ) 8階(804B)
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通1丁目7番1号
- オンライン参加 / Zoom (前日18時00分までにZoomURLをお知らせいたします。)

●参加定員

- 100名様

プログラム

●開会

- 主催者挨拶 / 来賓挨拶(復興庁) / 趣旨説明・分科会予告

●分科会

- 分科会1テーマ：被災者から地域の担い手に～当事者主体の実現に向けて～
- 分科会2テーマ：時系列で振り返る、支援体制の変化と今後の課題
- 分科会3テーマ：復興の過程で様々な支援や主体をつなぐ「コーディネーター」その役割と効果について深堀する

●全体会

- 「被災3県の被災地で現在残された課題」を「乗り越えるために必要なアクション」について

●閉会

●交流会(任意参加)

- 「私が思う今後の復興に必要なアクション」をフリートーク！

参加無料
定員100名様

| 参加対象者 | 今後も東日本大震災の支援に取り組まれる方、今後起こりうる大規模災害への備えに取り組まれる方
| 申込先 | URL/FAXにてお申込みの方は別紙申し込み用紙にてお申込みください。
| お問い合わせ | 一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター (担当：太田・平間)
| 電話番号 | 022-797-6708
| メールアドレス | info@michinoku-design.org

■主催：特定非営利法人いわて連携復興センター
一般社団法人みやぎ連携復興センター
一般社団法人ふくしま連携復興センター
一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター
東日本大震災支援全国ネットワーク (JCN)

■後援：岩手県 宮城県 福島県

※本事業は令和5年度復興庁被災者支援コーディネート事業により実施しております。

≫ 申込方法：申込フォーム または FAX
<https://forms.gle/pPygqqFj2mH6Zgxr5>



申し込み
締切
11月9日
(木)

分科会1

(担当：一般社団法人みやぎ連携復興センター)

被災者から地域の担い手に～当事者主体の実現に向けて～

12時50分～13時40分

復興支援から平時の地域支援への移行が求められる中、被災者や地域住民をエンパワーし、地域の課題解決力を高める取り組みをしている事例をもとに、支援における関係性や活動において大切にしてきた視点をふりかえり、今後の支援のあり方を考える。

登壇者



特定非営利活動法人ベビースマイル石巻
代表理事

荒木 裕美 氏

東日本大震災直後に当事者が中心になり子育て支援団体「NPO法人ベビースマイル石巻」を立ち上げ活動。2018年より「いしのまき子どもセンターコンソーシアム」を立ち上げ児童館の指定管理運営を行うなど、子ども子育て支援の実践を行う。

進行



宮城県社会福祉士/ファシリテーター
真壁 さおり 氏

せんだい・みやぎNPOセンター、みやぎ連携復興センターを経て、宮城県サポートセンター支援事務所にて、県内外の被災者支援従事者のバックアップとネットワーク構築支援を行う。現在、フリーランス社会福祉士として活動。

分科会2

(担当：一般社団法人ふくしま連携復興センター)

時系列で振り返る、支援体制の変化と今後の課題

13時45分～14時40分

復興公営住宅を背景に、発災から現在までの被災者支援の変化を支援者と避難者の両視点から振り返るとともに、現在の課題をふまえ、今後の被災者支援について話し合う。

登壇者



社会福祉法人福島県社会福祉協議会
地域福祉課主幹兼

避難者生活支援・相談センター長

佐藤 正紀 氏

1995年福島県社協入職
東北福祉大学卒業後、福島県社協入職により地域福祉(日常生活自立支援事業等)、施設部会協議会(高齢・障がい・児童)、総務企画、人材研修、生活困窮者自立支援事業(主任相談支援員、家計改善支援員)等の職務を経験し、2021年～現在まで地域福祉課主幹兼避難者生活支援・相談センター長を務めている。



石倉団地自治会 会長
田村 智則 氏

浪江町出身。

東日本大震災及び原発事故の影響により、浪江町が「緊急時避難準備区域」に設定されたため、二本松市に避難し安達運動場応急仮設住宅に入居。その後、二本松市の復興公営住宅石倉団地に入居。平成30年から石倉団地自治会会長を務めている。また、県北方部復興公営住宅親睦会副会長も兼任。



特定非営利活動法人みんぶく 理事/事務局長
鵜沼 英政 氏

福島県いわき市出身。

東日本大震災をきっかけに2012年に東京からUターン。6月に設立したみんぶく(旧称:3.11被災者を支援するいわき連絡協議会)へ入職。2015年12月、NPO法人みんぶく理事・事務局長就任。福島県の委託事業で県内の復興公営住宅にコミュニティ交流員を配置している。



分科会3

(担当：特定非営利活動法人いわて連携復興センター)

復興の過程で様々な支援や主体をつなぐ「コーディネーター」 その役割と効果について深堀する

14時45分～15時35分

被災者支援から地域課題解決へと移行していく中で、岩手のNPOとコーディネーターは、どのように岩手の課題に挑んでいくのか？NPOとコーディネーターの両者の話から深堀する。

登壇者



社会福祉法人 大槌町社会福祉協議会
五十嵐 幸太 氏

平成26年4月大槌町社会福祉協議会へ入職。生活支援相談員として被災者支援に従事。住民の住まいが災害公営住宅への移行していくなか、被災者支援と並行し、自治会設立支援や地域づくりなど、福祉視点やテーマ型のコミュニティ形成支援を行う。



特定非営利活動法人 吉里吉里国
松永 いづみ 氏

2012年岩手県釜石市復興支援員に着任したことをきっかけに移住。NPO法人吉里吉里国には2017年から携わり、2023年に理事長を継承。2021年～復興庁CDN事業の調整員を担い、地域コーディネーターとして人と人を繋いでいる。

全体会

(担当：一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター / 東日本大震災支援全国ネットワーク)

「被災3県の被災地で現在残された課題」を 「乗り越えるために必要なアクション」について

15時40分～16時10分

各分科会を経て、被災3県の被災地で13年目の今、残された課題は何か？それらの課題を乗り越え、安心・安全な地域を紡ぐために今後どのようなアクションが必要か？について議論する。

登壇者



一般社団法人ふくしま連携復興センター
代表理事

天野 和彦 氏

福島県須賀川市在住。避難者数が福島県内最大といわれた「ビッグパレットふくしま避難所」の県庁運営支援チームの責任者を務めた。2017年から現職。みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表。



一般社団法人みやぎ連携復興センター
代表理事

木村 正樹 氏

宮城県東松島市在住。NPO支援とコミュニティ支援活動を行い、現在に至るまで様々なNPO団体で役職を担う。2016年から現職。みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表。



特定非営利活動法人いわて連携復興センター
代表理事

葛巻 徹 氏

岩手県花巻市在住。2011年4月にいわて連携復興センターを岩手県内の中間支援NPO数団体で立ち上げ、理事・事務局長となる。2017年から現職。みちのく復興・地域デザインセンター 共同代表。



東日本大震災支援全国ネットワーク
代表世話人

栗田 暢之 氏

1995年阪神淡路大震災を契機に設立したNPO法人レスキューストックヤード代表理事を務める。2011年東日本大震災を受け、NPOセクターの連携と息の長い支援の必要性を呼びかけてJCNを設立し現在に至る。

交流会

※任意参加となります

「私が思う今後の復興に必要なアクション」をフリートークしましょう！
16時25分～17時30分



一般社団法人みちのく復興・地域デザインセンター 宛

送信日 : 令和 年 月 日

送信枚数 : 当紙を含め 枚

令和5年度3県合同シンポジウム FAX 申込用紙

紡ぐ～13年目を迎えた被災地、変化する被災者支援～

【下記ご記入の上、022-797-6788までFAXをお願い申し上げます。】

お名前	
所属組織	
メールアドレス	
電話番号	
参加形態	<input type="checkbox"/> 会場参加（いわて県民情報交流センター・アイーナ） <input type="checkbox"/> オンライン参加（Zoom）
交流会の参加	<input type="checkbox"/> 参加 <input type="checkbox"/> 不参加
当シンポジウムはどちらでお知りになりましたか？	
当シンポジウムへのお申込み理由を教えてください。	